

花火大会の有料席 「プレミアム化」加速 「最上位席」平均 4 万円超え

「有料席」は 4 年間で 2 割高に
「価値に見合う価格」の模索続く

2026 年「主要花火大会」有料席導入・価格調査



本件照会先

飯島 大介（調査担当）
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343（直通）
情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/07/22

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに
帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成して
おります。著作権法の範囲内でご利用いただき、私
的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

国内で夏季に開催される主要な 106 の花火大会のうち、約 8 割にあたる 84 大会で観覧エリアに「有料席」を導入していることが分かった。このうち半数超の 45 大会で、2026 年開催の花火大会における有料席の「値上げ」が判明した。

花火大会の有料席におけるチケット料金をみると、1 区画（席）あたりで最も安い「一般席（最安値）」平均は 5517 円、「プレミアム席（最高値）」平均は 4 万 611 円。

株式会社帝国データバンクは、全国の主な花火大会における有料観覧席の価格動向について調査・分析を行った。

[注 1] 全国の花火大会のうち、動員客数が 10 万人以上（平成、2023 年調査時点）の 106 大会が対象

有料席の範囲は、「個人席」「グループ席」が対象（観覧エリアの入場料を含む）

[注 2] 駐車場料金等の別途付帯料金、企業協賛金は集計対象外

[注 3] 2020 年～2022 年はコロナ禍による大会中止が多いため対象外

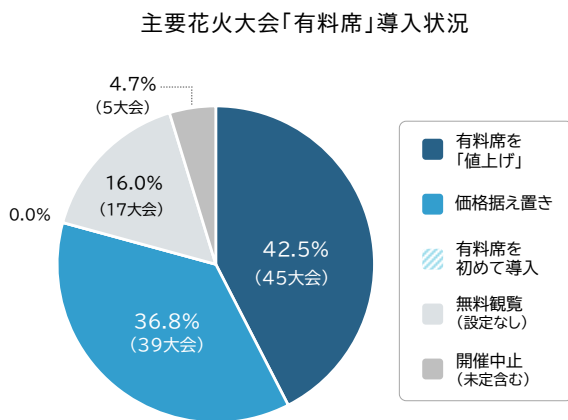
[注 4] チケット価格は 2026 年 7 月 17 日時点の最新値。席種の変更や、本年調査以前で価格の変動が判明した場合は
遡及して再計算を行っている

花火大会の 8 割で有料席を導入 5 大会は開催なし

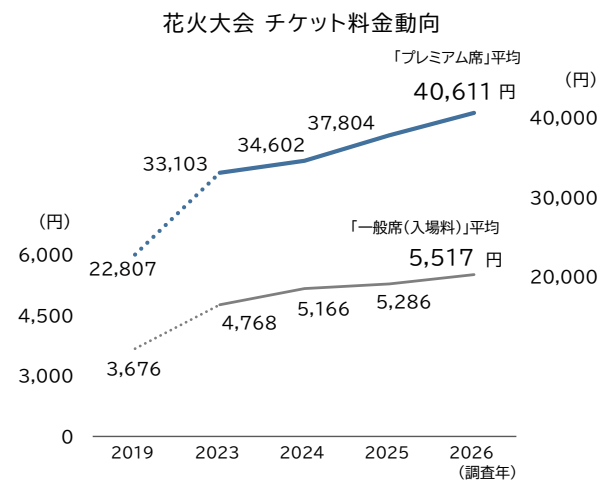
国内で夏季に開催される主要な 106 の花火大会のうち、約 8 割にあたる 84 大会で観覧エリアに「有料席」を導入していることが分かった。前年(84 大会)から変動がなかった。このうち半数超の 45 大会で、2026 年開催の花火大会における有料席の「値上げ」が判明した。前年(42 大会)から 3 大会増加し、有料席の価格を引き上げる傾向が続いた。

なお、調査対象の花火大会のうち、5 大会で 2026 年開催の中止(未定含む)が判明した。会場近隣で大規模な国際競技大会が開かれるなど特殊事情も一部でみられたものの、実行委員会メンバーの高齢化や運営スタッフ不足、警備費などの物価高騰などを背景に開催を取りやめる地方の花火大会が目立つ。

主要花火大会の「有料席」設定状況



〔注〕 平年の動員客数が10万人以上の花火大会(全国)が対象
座席種別が通常の観覧席相当に該当するもの



〔注1〕 「有料席」の範囲は、1席または1区画単位。2025年以前は一部再集計を含む
席区分は次の通り。
〔注2〕 一般席＝入場料を含む「最安値」
プレミアム席＝設定された席種のうち、最も高額なもの(最高値)

プレミアム席、初の平均 4 万円超え 一般席との格差 7 倍

有料席のチケット料金をみると、複数種類が用意された観覧席のうち、1 区画(席)あたりで最も安い「一般席(最安値)」平均は 5517 円だった。前年(5286 円)に比べて 4.4%・231 円増加した。2025 年開催時(+2.3%・120 円増)から値上げ幅は拡大し、コロナ禍後の 2023 年以降、4 年間で約 16% 上昇した。最前席や区画当たりの面積を広く確保したテーブル席、ソファ席など、多様な種類の観覧席が導入される「プレミアム席(最高値)」平均は 4 万 611 円だった。前年(3 万 7804 円)から 2807 円・7.4% 増と大幅な値上げとなり、集計開始以後で初めて平均 4 万円台に到達した。また、2023 年以降の 4 年間では約 23% 上昇した。

この結果、「一般席」と「プレミアム席」の平均価格差は 7.36 倍となり、前年開催(7.15 倍)を上回って過去最大となるなど、一般席と有料席の価格設定で「二極化」戦略を進める大会が増加した。

花火大会では、観覧客の転倒・ケガなど群衆事故対策が求められていることに加え、私有地への無断立ち入りといった開催地住民とのトラブルやテロ対策など、安全確保のために警備強化の必要性が高まっている。ただ、これまで花火大会を支えてきた地元商工会や自治会などのコミュニティは高齢化などで縮小が続き、警備会社やイベント企画会社などに運営を委託せざるを得なくなっており、花火大会全体のコスト押し上げ要因となっている。加えて、人手不足によるスタッフなど人件費の高騰、近時の円安に加え中東情勢の緊迫化に伴う火薬原料の値上がりや調達難、観覧席の椅子やテントなど備品レンタル代でも値上げが続き、運営

予算を圧迫する状況が続いていることから、花火大会の開催維持を目的に有料開催へ踏み切るケースが多くみられる。

他方で、2025 年から席数の拡充や種別の細分化の動きが強まり、観覧エリアなどへの入場料を数千円に引き下げる一方、最も花火を見やすいロケーションの席種では、ふるさと納税の活用や設備・アメニティの充実、高い競争倍率を背景に価格上限を大幅に引き上げ、1 席/1 区画あたり 5 万円以上のプレミアム席を設置する大会が多くみられた。

花火大会「有料席」種別の平均価格推移

チケット種別	(単位:円)		(単位:%)		(単位:円)		(単位:%)	
	一般席 (最安値)	前年比			プレミアム席 (最高値)	前年比		価格差
2019年（参考）	3,676	—	—		22,807	—	—	6.20倍
2023年	4,768	—	—		33,103	—	—	6.94倍
2024年	5,166	+398	+8.3		34,602	+1,499	+4.5	6.70倍
2025年	5,286	+120	+2.3		37,804	+3,202	+9.3	7.15倍
2026年	5,517	+231	+4.4		40,611	+2,807	+7.4	7.36倍

【注1】「有料席」の範囲は、1席または1区画単位。2025年の調査データは一部再集計を含む

【注2】席区分は次の通り。一般席＝入場料を含む「最安値」 プレミアム席＝設定された席種のうち、最も高額なもの(最高値)

有料席は 4 年間で 2 割高 「価値に見合う価格」の模索続く

値上げの動きが「モノ」から「サービス」へと広がるなか、花火大会でも有料席の導入が急速に進み、近年は有料席の価格帯を引き上げる動きが多くみられるようになった。導入が本格化した 2023 年以降、特に高額化の動きが顕著で、プレミアム席では 10 万円を超える価格帯も珍しくない。最安値席では、席種の多様化で価格を引き下げる動きもみられるものの、2023 年比で約 16% 増、プレミアム席では約 23% 増と、総じてチケット代は大きく値上がりした。

ただ、近時の花火大会では豪華なサービスやプレミアム感を設定した「超高額席」がインバウンド富裕層向けや、特別な日を祝いたいニーズ向けに、「最安値席」が猛暑や混雑、場所取りといった苦勞を避けたい若年層やファミリー層向けに販売が好調で、価格帯や観覧シーンに応じた購入層の棲み分けがみられる。近時の物価高を背景に、2026 年夏休みの平均予算は 5 年ぶりに減少し、近場で過ごす傾向が強まるなか（明治安田生命「夏に関するアンケート調査」）、花火大会における有料席は「安近短レジャー」の候補として、販売は堅調な推移が見込まれる。

他方で、打ち上げ数が少なく、パイプ席のみなど一般席でも割高感のある大会や、具体的な付加価値感に乏しい 1～2 万円前後の価格では売れ残った大会もあり、高額な観覧席に対する受け入れ度合いには差がみられる。物価高による節約志向で消費者の選別眼もシビアになるなか、花火観覧を含めた体験価値に見合う「妥当な価格設定」を探る展開が続くとみられる。